

著者 會員 工學士 釘 宮 馨
著者 會員 工學士 加 納 儉 二

拙著に對し鮫島茂氏の御討議を拜見するを得たる事は感謝に堪へない。

本可動橋採用は既述の如く、鐵道省側としては固定橋に依る場合、出入船舶並に沿岸商工業者の損害補償の査定
の困難なる事を豫想したるが爲であつて、その結果は工費を節約し得たるも、將來本線の運輸量増大すべき場合を
豫想すれば相當の困難を生ずるものと思はれ、鐵道としては將來に犠牲を拂ふ事となる。然し内務省(地方)側が
若津、諸富兩港の將來に關して多少の制限を受くる事を忍びて之を承認せられたる雅量に對して深く感謝と敬意
とを表するものである。たゞ御説の如き上流線は佐賀線本來の短絡の使命より云ふも、工事費の點より云ふも實行
し難かりしは既述せし通りである。

尙御質問に對し次に簡単に御答へしたい。

1. 基礎掘鑿は壓搾空氣潛函法によりても可能である。寧ろ工期を短縮して基礎の確實性を増加すると思ふ。
然し壓搾空氣潛函法に依る時は特殊の設備と之に伴ふ費用の増大を來すの不利がある。又一面それ程迄にして工期
を短縮する事は佐賀線全通の計畫上より見て必要が無かつた。
2. 井筒地點外廓に鐵矢板を打ちて築島を造る事は反つて工費を増大すると同時に水流に對しても一層大なる
障害となる事を恐れた。
3. 井筒の第一ロットのコンクリートを乾船渠内で造つたのは、幸ひ附近に乾船渠の利用し得べきものがあつた
のと、より確實なるコンクリートの築造を圖る爲であつた。
抑も橋脚位置で鐵桁より吊下げた事に就ては技術上にも面倒な事があつたし成るべく吊下げて置く時間を短縮
する必要があると思つた。
4. エヂェクター掘鑿其他の工費は又適當の機會に報告をなし得る事と思ふ。
5. 埋込みゼットに關して地質が全く砂の場合はゼットの數を増加すれば良結果を得られると思ふ。
6. 井筒の偏倚が主として上流に向つて起つたのは何等特別の理由なく全く偶然であつたと思ふ。